

♪保健師からの子育てワンポイントアドバイス♪

ほめ方、叱り方

《ほめ方》

こどもが望んでいるのは、「見てもらうこと」です。

よい結果や大きな変化がみられた時だけほめるのではなく、日頃のことも、あたりまえと思わず、「みているよ」「できたね」「終わったのね」とやっている時に声をかけましょう。

こどもと一緒に喜びを分かち合ったり、「うれしいよ」「ありがとう」と親の気持ちを伝えることは、認められたと

いう体験となり、次の行動への意欲につながります。



《叱り方》

こどもが悪さをした時、親は冷静ではいられなくなりますね。腹が立つあまり、どう対応したらいいかわからなくなることもあるでしょう。

叱り方にもポイントがあります。

- ① こどものしたこと行動を叱る
- ② その場で短い言葉で叱る
- ③ ほかの子と比較して叱らない
- ④ 次はどうしたらよいのかを伝え、少しでも変化したら、すぐほめる



こどもが悪さをする原因は、様々です。 例えば…

- ・それがいけないことだとわかる年齢になっていない
- ・眠い、さびしい、退屈、興奮、具合が悪い、欲求不満
- ・どこまでなら許されるのか試そうとしている
- ・こどもらしくしているだけ 等々

ですから、こどもが困った行動をした時は、問題を解決するつもりで、①どうしたのか（事実） ②なぜそうするのか（原因）

③どうしたらよいのか（対策）と順序よく考えてみましょう。

それでもうまくいかない時は、ひとりで抱え込まず、誰かに話したり、相談してください。



たたいても効果はありません

たたけば、その時はいうことをきくかもしれませんが、親の目が届かないところで、また悪さをすることになります。

さらに、相手が自分の思うとおりにならない時は、たたいていいのだと学習してしまいます。

たたくことは、一見ききめがあるように思えますが、長い目でみると効果より害があるほうが大きいのです。

問合せ・発行

富士市

地域保健課

こども未来課

(子育て総合相談センター)

TEL 64-8993

TEL 55-2896